

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

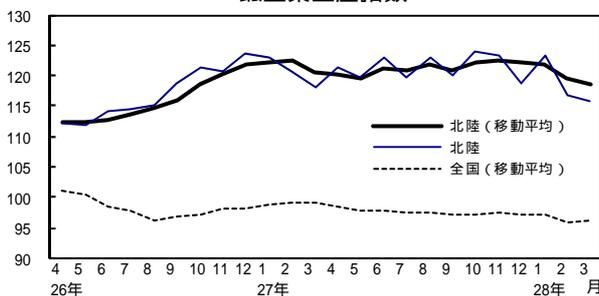
	前回(平成28年2月)	今回(平成28年5月)
景況判断	緩やかな回復基調	弱さがみられるものの、 <u>緩やかな回復基調</u>
鉱工業生産	おおむね横ばい	<u>弱含み</u>
個人消費	持ち直しの動き	持ち直しの動きが続いているものの、 <u>足踏み</u>

1. 生産及び企業動向

- ・ (1) 鉱工業生産は弱含んでいる。

1～3月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン用電子部品の輸出が減少していることから減少した。化学は、後発医薬品が減少した。はん用・生産用・業務用機械は、金属工作機械等の輸出が持ち直していることから増加した。繊維は、織物の輸出が好調であることから増加した。金属製品は、建築用金属製品が減少した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

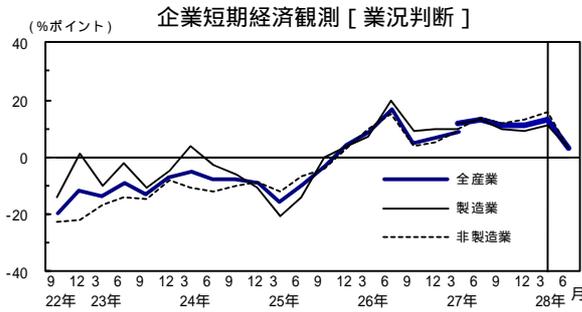
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	20.8	5.8	9.0	5.0	8.0	5.8
化学	13.5	7.6	1.3	3.0	14.2	7.2
はん用・生産用・業務用機械	12.7	5.6	5.3	13.2	5.3	8.9
繊維	8.4	2.3	0.8	3.0	1.7	0.7
金属製品	6.0	4.2	1.0	4.1	3.9	4.3
鉱工業	100.0	1.0	2.9	3.9	5.4	0.8

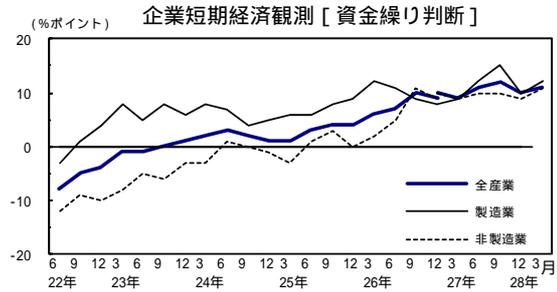
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1～3月期、3月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

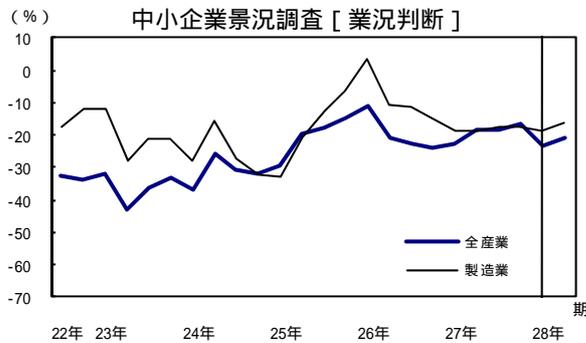
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年6月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

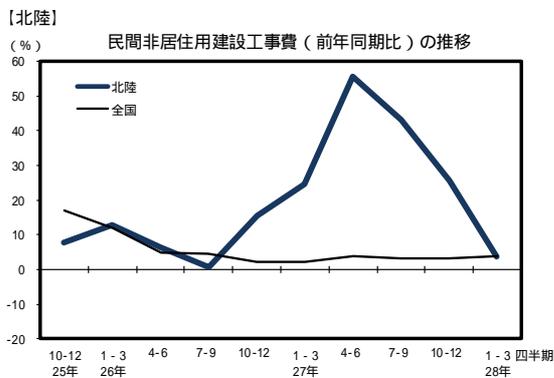


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「国内と北米市場の受注が伸びてきている(一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績(前)	28年度(前)
全産業	49.2(1.6)	3.3
製造業	46.8(2.8)	7.6
非製造業	51.4(0.3)	0.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.7%増、2月は同2.4%減、3月は同2.8%増となった。

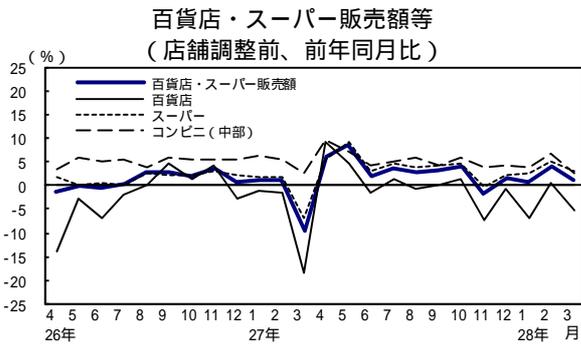
百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1月は、暖冬影響による冬物商材の苦戦に加え、新規店舗への客足の流れもあったものの、前年比では上回った。2月は、天候影響などから衣料品は振るわなかったものの、催事効果等もあり、前年を上回った。3月は、飲気候の変動が激しかったことなどから衣料品が振るわなかったが、食料品は比較的堅調に推移したこともあり、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[家計動向関連 (現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、44.5となり前月より0.5ポイント上昇した。

「引越しシーズンもあったが、契約獲得数が予想以上に増えた (通信会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

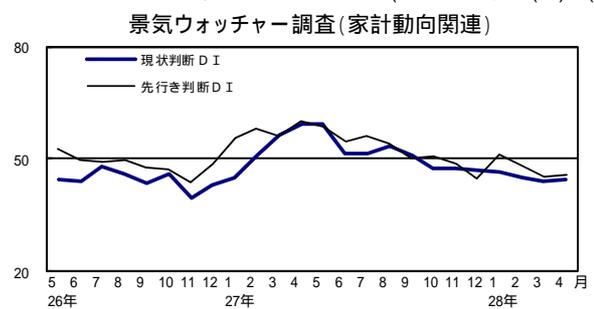
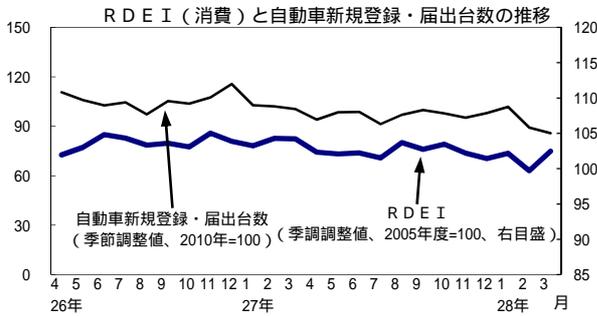


	28年1-3月	28年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.9	0.7	2.4	2.8
百貨店・スーパー(*2)	1.9	0.6	4.1	1.3
百貨店(*2)	4.1	6.7	0.6	5.4
スーパー(*2)	3.5	2.6	5.1	3.2
コンビニ(*2)	4.4	3.9	6.9	2.8
乗用車(*3)	10.4	2.2	11.9	12.5
(季節調整値)(*3)	4.9	3.8	12.4	3.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは中部

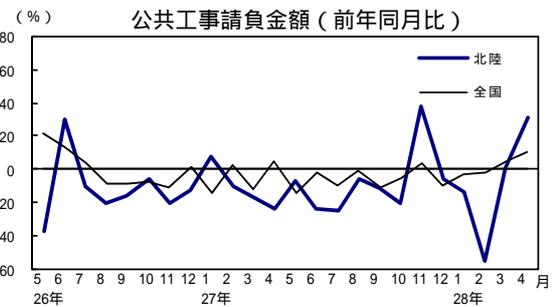
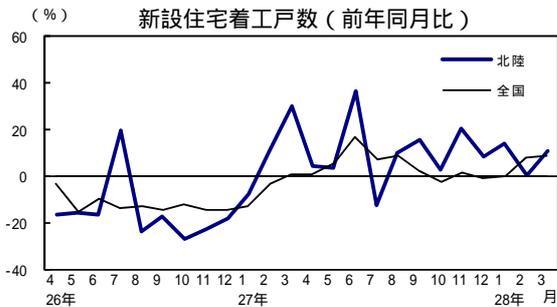
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は、27年度累計でみると前年度を下回っている。

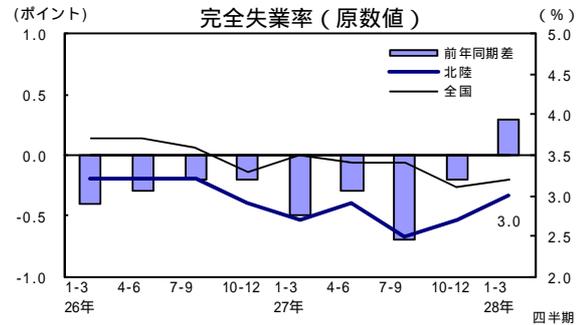
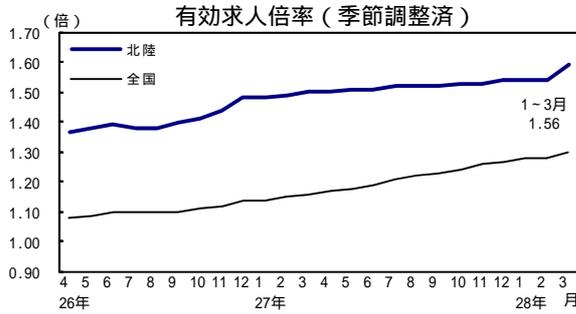


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[雇用関連（現状）]

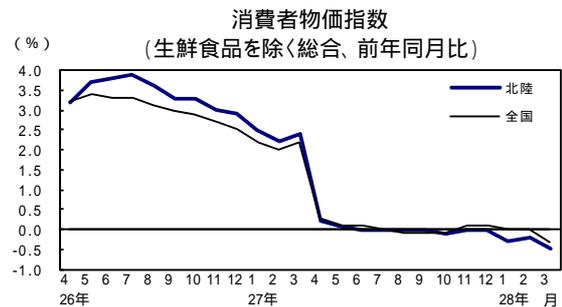
「求人数は横ばいが続く。一方で求職者は増加しているが、高年齢化で成立が難しくなっている（民間職業紹介機関）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は、下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年4-6月	7-9月	10-12月	28年1-3月	28年4月
倒産件数	59	37	54	57	25
(前年比)	29.8	33.9	5.9	14.0	13.6
負債総額	797	58	94	232	19
(前年比)	290.4	31.3	3.6	133.5	97.4



景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[合計（景気判断において熊本地震に言及したもの）]

<現状>

・天候の不順や熊本地震の影響もあるのか、買物動向をみてもあまり多くを購入するような様子ではない（スーパー）。

<先行き>

・熊本地震の影響で、県外からの観光客数が少し落ちるかもしれない。今までの震災の時のようにボランティアに行く人がいて、特にこれからの夏山登山客数に影響が出るかもしれない（タクシー運転手）。

